

第5回新たな「国土のグランドデザイン」構築に関する

有識者懇談会における主な意見

○ 冒頭、奥野委員、小田切委員より提出資料について説明

(地方部に移住する若者の特徴について)

- ・ 地方部に移住する若者の特徴は、学歴が極めて高いということ。具体的な数字はないが、おそらく大学・大学院卒業者が優に8割を超えていると思う。さらに、学卒直後に農山村に向かう者もいるが、やはり数年間から10年程勤めてから農山村に向かうというパターンが主流ではないか。彼らの専門性は非常に多様だが、必ずしも自らの専門性を生かそうとはせず、何か貢献できないかということで、集落でのワークショップなどを通じて、自分自身が成長していく中で、起業等を行っている。直接の専門性と必ずしも直結していない者が大多数ではないか。

(新たな公の活動を進めるための方策について)

- ・ 寄附文化の醸成が日本の課題と言われているが、例えば日本にも赤い羽根募金などは規模も大きく定着しており、非常に立派な寄附文化もあると思う。

民間のほうでは、多様なファンドが、ここ数年でぐっと数が伸びてきている。ユニークな例で言えば、京都では、居酒屋のビールとおつまみのセットを480円で売り、そのうちの50円はファンドを通していろいろな活動に寄附される仕組みがあり、その居酒屋の関心のある活動に寄附が流れる。様々なファンドが急速に増える中で、その中から伸びてくるものはあるのか、あるいは多様化しながらトータルで増えていくのか、まだわからない。

寄附文化との関係で、大事なのは、NPOや地域住民、大学、農協、商工会等、絶えず交流・連携できるような共助社会の場づくりであり、地域毎に形成することで、ファンド等の信頼性向上や多様な寄附文化が出てくるなど、何か伸びていくのではないか。

- ・ NPOマネジメントに関する専門的な信頼できる人材を国がサポートして育成していく仕組みが必要。足腰の強いNPO活動のためには、マネジメントに必要な最低限のスキル、ノウハウを持つスペシャリストが不可欠。
- ・ NPOは専門性を持って活動している。マネジメント人材の育成には、一般的な経営セミナーではなく、それぞれの専門分野で、企画・立案する、あるいは情報を世間に発信するといったようなセミナーをやる必要がある。セミナー後も、現地に来て伴走型の支援をしていくことが大切。こういうことができる中間支援組織を育てなければならない。もう1つは、大学が人材育成をやるということも必要。ただ、大学院の

教員として教育ができる人材がまだいない。

- ・ これからどんどん人手不足になる中、NPOの力も非常に重要になってくるが、活動を行うためには、行政が提供しているサービスを住民も参画して実現するといったようなオープンガバメントの仕組みも必要。

いろいろなアイデアがあったとしても、それを提案できたり、新しいことができる環境が地域に整っていなければ、結局人は来ない。地域がそういった意識を持つことが重要。

少子高齢化社会といったような問題に対しては、皆が当事者意識を持ち、課題解決のためにみずからが参画していこうという気持ちを持つことが大切。

(移動と交流を軸にした活性化の必要性について)

- ・ 貿易収支は既に赤字、経常収支もまもなくという状況において、日本は通商国家モデルに酔いしれていられない局面に来ている。

工業生産モデルを発展させるということはもちろん重要であり、例えば自動車産業に次ぐ新しいものづくりの基軸になるプロダクトサイクルを生み出していくことも当然必要であるが、同時に、移動・交流を軸にした、付加価値の創出にしっかりしたイマジネーションを持たなければいけない。一つには観光立国がある。観光を軸に付加価値を生み出そうとしたならば、2泊3日で3万円のツアー客という発想ではなく、質の高いリピーターを引きつける必要がある。例えばシンガポールは医療ツーリズムをベースに、医療を軸にした観光で引きつけている。

国際会議の規模についても日本は、1,500人とか2,000人であるが、シンガポールや香港では1万を超して2万という単位。何千人単位の国際カンファレンスを引きつけることを軸にした観光立国論も必要。医療やカンファレンスだけではなく、食とか農と結びつけたような観光など、質的にもグレードの高いものにしていくような発想が必要。

日本をどういう産業によって活性化し、潤わせていくのかという新しい産業論、交流を軸にした活性化という新しい視点が必要。

(地方や田舎が持つ可能性について)

- ・ 地方、田舎は非常に可能性がある。都会と異なり、自分がやりたいことを訴えることができ、また、行政を動かすことができるという立場がとれる。しかし、そのように自分が行動して何かをやっていくという感覚、意識を持っている人が極めて少ない。

もう一つは自然が残っているということ。植物が育つ力強さ、ごまかしのきかない強さなど、自然が持つ力に多くの人は癒され、力をもらうというところがあると思う。国土のランドデザインの中に、自然だとか生態系だとかそういった観点も必要。

(田園回帰の背景と農村等地方の閉鎖性について)

- ・ 若者もかつては、農山村は格好悪いということで都市に出てきていたが、今は、自分自身の力でいろいろな可能性があるということで、農山村は格好いいという若者も増えてきた。

また、今ではあまりにもコミュニティというものが都市で壊れ過ぎているために、コミュニティを求めて、若者たちは移住しているという側面がある。

- ・ また、受け入れ側の地方の閉鎖性は、まだあると思う。うまく地域に入り込めるところは、外から来た人がまた外の人を呼んでくるという流れがある。ただ、外から入ってくる人も、郷に入れば郷に従えで、うまく協調して慣れていかないといけない。

○続いて、事務局より資料4-2について説明。

(「骨子の方向性(試案)」について)

- ・ 非常によくまとまっているが、日本の歴史や文化の香りが欠けている。少しテクノロジーサイドに流れ過ぎかなという感じ。

2050年を見据える中で、歴史が長い国であるとか、伝統とか、地方に息づく文化とか、そういうものに誇りがあるといったような、何かそういうものを重視するという視点が欲しい。でないと、目標が状況によりブレてしまう。手段が状況により変わるのはいいが、目標はブレないものが欲しい。

- ・ 文化を大切にし、守るんだという視点は欲しい。

少子化を前提にどう対策を打つかというよりも、子供が生まれる社会をつくるという、そういう姿勢があってもいいのではないか。

担い手の問題は、メガリージョンの中でもやはり中山間だけの事情かなと思う。

- ・ 最初の時代潮流について、この中に、例えば地方分権やNPOのように公の活動をいろいろな人がやるようになってきたということを入れて欲しい。

また、人口、合計特殊出生率を回復させるということは極めて大きなテーマ。例えば職住近接型の社会をつくるとか、情報通信を絡め、テレワークで働くことと子育てが両立できるような社会をつくるとか、土地なり、土地の使い方にかかわる話も幾つかある。2050年には合計特殊出生率を回復させ、人口が維持されている社会を目標にするというメッセージを書く必要。

人が減っていく中で、活動を維持するには、観光を含めて国際交流が大事になってくる。西洋、近隣諸国、アジア、これはやはり大事で、その友好の上に日本の産業活動は成り立つと思う。最後のところでも1つの柱としてそのことを入れておくべきではないか。国際交流を活発にするような施設整備は必要。

- ・ このレポートを何のためにいつどう使うのかということ意識してつくる必要があ

る。国土形成計画や5全総とキーワードが似ているとか、また理念だけは書いてあるが具体的ではないという面や、一方で、細かい話がいっぱい出てくるというインパクトのなさ。

国土形成計画の更新版ではなく、もう少しコンパクトに、柱をはっきりさせ、前とはここが違う、これはプロジェクトとしてやるということを整理する必要。前の形成計画と並べて、違いや新しさをわかるようにして欲しい。労力のわりに、分厚くて、それで誰も読まないということではしょうがない。どこにでも書いてあるようなことは全部省略ということがいい。

- ・ 全体的に大変よくまとめていただいているが、産業構造を変革させるために、国土のインフラがどうあるべきか、ということ具体的にして欲しい。

自動車は、社会のインフラの一部として、社会システムを構成する一部の機能として多分存続を許されると思う。産業界がやることと、インフラ側とのマッチング、そういう姿が見えてくるといい。

人口が減る、高齢化する、つまり、日本人が何か劣化するようなイメージが出てしまうが、ほんとはそうではない。例えば少ない子供を一生懸命教育すれば、英才教育が行き渡るし、高齢者を何とか頑張らせて働けるようにすれば、経験値は積み重なる。そこをどうやって生かすかということを考えていく必要がある。年をとり、力はなくなったが知恵はあるという人が、機械にサポートされてがんが働ける世の中という夢を描いたほうが楽しいのではないか。

- ・ 多様な生き方を国民が選択できる国土というのは賛成。一言で言えば、地域から見れば、運命住民ではなく、選択住民。国民がその地域を選択してそこで多様な生き方をするという方向性は賛成であるが、2つ条件がある。

1つは、どこでも高い出生率を実現できるということ。やはり農村の高い出生率と都市の低い出生率と非常にコントラストがあり、都市でもたくさんの子供が育てられるという、そういうことをきちんと書き込むことが必要。

それからもう1つは、どこの地域に行っても居場所と出番があるというところも何らかの表現をしていただきたい。

以上